



# 秋の図書館を詠む



あの月を

取ってくれると

泣く子かな

小林一茶

●秋の名句

●本学の所蔵資料

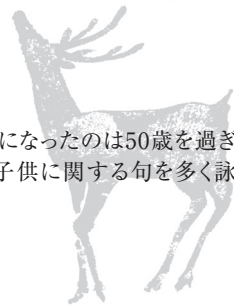
小林計一郎 著『小林一茶』(人物叢書 新装版)

吉川弘文館 1986

請求番号：911.35||Kob 本館地下書庫

●俳句の説明

一茶がはじめて親になったのは50歳を過ぎた頃で、その頃に子供に関する句を多く詠んでいます。



本学園の学生・教職員の方々から投句いただきました。

書架の奥  
ひらりと一枚  
楓の葉  
紫 卯

図書館は  
今日も閑かに  
秋灯し  
浮 駒

標す間もなく  
秋の夜  
遊 壺

秋深し  
月明かりの下  
読みふけり  
猫

秋雨に  
いとよきたたみ  
物語  
日向雅

十五夜に  
想い巡らす  
竹取話  
欽 作

秋迎え  
老い方採し  
ライブラリー  
多 聞

封筒の  
開封手伝え  
カマキリよ  
多 誤作

木犀の  
香りで和む  
読み流し  
多作一葉

頤珍漢  
素人俳壇

秋風に  
ページめくられ  
紅葉のしおり  
食いしん坊

